

「みやざき4Rコンテスト」受賞者一覧

最優秀賞

ひかりの森こども園

園で出た野菜くず250kg、家庭から持ち寄った野菜くず250kgの合計500kg（年間）をコンポストにすることで、ごみ減量と肥料への循環を行っています。

また、発酵させるために必要な米ぬかと鶏糞も園でまかっています。年間80俵のもみ米を園内で精米し、ぬかを廃棄せず発酵の原料としており、もみ殻は花壇にまいて防草として活用しています。鶏糞は飼育している鶏の糞を利用しています。

完成した堆肥は畑、田んぼ、プランターで利用しており、子どもたちは、ごみの循環など様々なことを生活の中で学び取っています。



優秀賞

入江 庸子【都農町地域おこし協力隊】

マイバッグと共に、マイ箸とマイ弁当箱を持参し、お弁当を購入しています。

弁当箱を持参すると、容器に入っているお弁当の中身のみを自分の弁当箱に詰めてくれる店を利用しています。



RESCRO（リースクロー）

地域の福祉施設の需要に合わせ、「不要になった衣類」を「子供用エプロン」や「コースター」などにリメイクする活動を行ってきました。

また、学校内では不要なズボンをはき取りリメイク講座を開催し、シューズ入れを作成しました。完成したシューズ入れを市内の体育館へ提供すると同時に、この活動の意義やシューズ入れの作り方を掲示し、不要な衣類が増えすぎている現状を広めることにもつながりました。



特別賞

尾割 弘典 (リフューズ賞)

庭の小さな畑ですが、その日食べる分だけを取穫し、楽しんでいきます。



森末 富子 (リデュース賞)

2006年から生ごみをごみにしないように努めてきました。自前のボックスを作り、選定枝や雑草を生ごみと古い土と混ぜて堆肥化しています。おかげで燃やせるごみは2~3か月に1回出すだけです。



森園 祐樹 (リユース賞)

子どもの保育園用の昼寝用布団や毛布を運ぶバッグが必要になったため、使わなくなったカーテンの端を縫い、カーテンタッセルは取っ手として縫い付けて、手作りバッグを作成しました。布団の入る大きな袋は安く手に入りやすく、カーテン生地はとても丈夫なので使い勝手が良いです。

また、使わなくなったカーテンを、誕生日や記念日などのイベントの日にテーブルクロスとして敷き、食事を家族でよりたのしめる空間づくりに再活用しています。



